

— 広報 — なぎじん

毎月1日発行



村章

4

1991

No.185

●今帰仁村の人口

平成3年2月28日現在
男4,821人(+10) 女4,893人(+10)
世帯数3,061(+3)
村の人口9,714人(+20)



沖縄県地域史協議会今帰仁で開かれる 記念講演「今帰仁城跡から見たグスク時代の山原」

▲今帰仁城跡から発掘された遺物を前に説明を熱心に聞入る参加者たち

三月九日、村コミュニティセンターで、那覇市教育委員会の金武正紀氏を講師に招き、「今帰仁城跡から見たグスク時代の山原」についての記念講演が開催された。今回の記念講演は、沖縄県地域史協議会と今帰仁村歴史資料館準備室の共催で開かれたものである。

地域史の方々には、金武氏の案内で今帰仁城跡の本丸から発掘された遺物を見学し、復元された中国(明国)の青磁や東南アジアの南蛮焼きなどに目を見張らしていた。

記念講演には、多数の村民も参加し、北部のグスクの分布や立地、それに規模など。今帰仁城跡についてはスライドを使い、具体的に発掘遺物や版築、それに翼廊のついた基段などについて説明された。

村民から「改めて今帰仁の歴史に感動した」、「非常にわかりやすい説明で、歴史が身近なものになった」などの声が聞かれた。

平成3年度予算48億8319万3千円を提案 うるおいとやすらぎのある 文化村づくり推進

平成三年第一回今帰仁村議会定例会が三月十二日開会され、二十八日までの日程で審議が進められている。

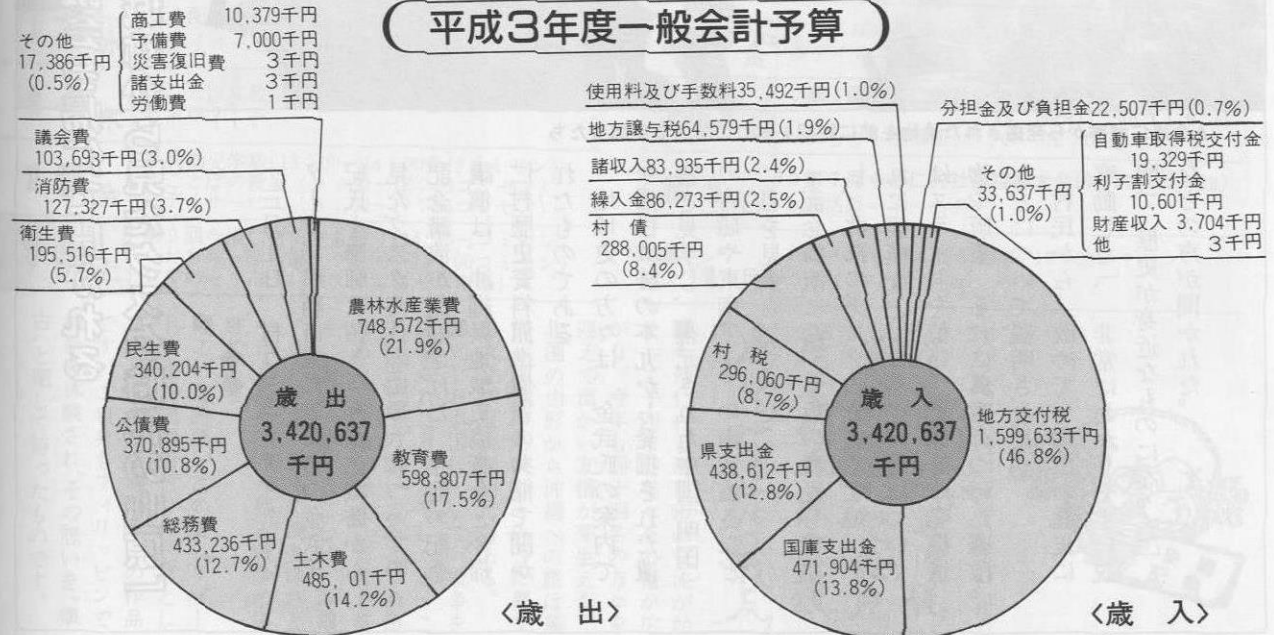
今議会に提案されたのは、平成三年度一般会計予算案、特別会計（国保・老保・水道）予算案、条例改正案など十七の議案と三件の同意案件となっています。冒頭、議案説明に先立ち、提案事項の説明に立った上間博安村長は「福祉の充実、生活環境の整備、農業をはじめとする産業の振興、教育の振興に積極的に取り組み、うるおいとやすらぎのある文化村づくり」の推進を図りたい」と抱負を述べました。

提案された一般会計予算案は三四億二〇六万七千円（前年度比二・五％の増）、国民健康保険特別会計予算案は七億七十一万五千円（前年度比二五％の増）、老人保健特別会計予算案は五億九千七百万三千円（前年度比一〇％の増）、水道特別会計予算案は二億五千万八千円（前年度比一・一％の減）で、総額四八億八千九百三十一万九千円となっています。村長の提案事項の説明と一般会計予算の概要をご紹介します。



熱心な審議が行われた平成3年第1回定例会
円内右は上間博安村長、左が山城正議長

平成3年度一般会計予算



村長提案事項説明概要

村政の方向

基本理念と将来の展望

はじめに

平成三年度今帰仁村議会第一回定例会を招集するにあたり、平成三年度一般会計予算案をはじめ各特別会計予算案、条例案等を提出し、議会の適切なご審議をお願い申し上げます。

基本理念

村政の基本は平和を基調に現行の地方自治制度を有効に活用しつつ、村民主体の立場から自治体と与えられた権能を十分に発揮し、村民との対話による開かれた民主的行政をめざすこととあります。

村民と共存できる

優良企業の誘致

(1) 自立発展の基礎づくり

激動を続ける社会経済情勢の中にあっても村政は、地方自治の本旨を踏まえ、政策的には福祉の充実、生活環境の

望に如何にして応えるか、自主財源の確保は焦眉の急務であり、村政の大きな課題であります。

(2) 過疎と高齢化対策

平成二年度における国勢調査によると、本村の人口は、九一六六人で、五年前の昭和六〇年調査の人口と比べ三〇一人の減少と、今なお過疎化が進行している状況である。

村の人口の増減については、人それぞれ意見の異なることでありましょうが、村の適正人口はいくらかといわれれば即答する資料は持ち合わせていませんが、戦前、戦後の国及び県の人口政策を振り返って見たいと思います。先ず考えられることは、食糧の自給度と人口のバランス、これが一定の基準としての人減らし政策、いわゆる国策として外国への移民政策がとられたのではないのでしょうか、ですから時に、棄民政策としてさげすまれたこともあったわけがあります。

このようにわが国の農政は戦前、戦後一貫して食糧の自給政策が農政の基本となつて干拓事業等により、水田が拡大されながら国際的に貿易自

由化が叫ばれ、日本の農産物に目が向けられ、食糧自給率の向上政策も半ばにして挫折し、水田も減反に継ぐ減反を強いられる結果となり、農畜産物の自由化は、農業を一方的に窮地に追い込んでいる状況にあることは周知の通りであります。

このような情勢を背景に、全国的に農村、山間僻地の町村は若者が農業を離れ他産業へ流出し、農村は過疎化の進行を余儀なくされていると理解しております。しかしながら、本土と比べ沖縄は亜熱帯地方に属し、温暖な気候条件を活かし、本土で生産されない端境期に生産できる有利な条件を備えているため、花卉、ハウス西瓜、観用植物の栽培等、若者のＵターンも見られるものの競合などを考えると、農業就業による若者の定着はそう多くは望めそうにない。

このような現在の状況からして、若者を定着させるため雇用の場を創出することが最も望ましく、かつてのような自給自足時代とは異なり、農業の振興を図るとともに、他産業の振興も図りながら村政の活力ある村づくりを進める

ことが肝要であると考えます。本村は過疎化と高齢化が平行して進んでいる状況にあり平成三年二月末現在の高齢人口比率は一八・九三％と高く正に高齢化時代へと進行しているのが現状であります。

高齢化社会を迎えて、高齢者の福祉対策等、村政に課せられた大きな責務の一つであります。これに加えて、若者の流出による過疎化は避けては通れない問題であります。高齢化社会を考えると、一体これからの村民の負担はどうなっていくかを真剣に考えなければなりません。

申し述べましたように高齢者の福祉、健康づくりのための医療等、すべて村民の負担にかかわる問題だからであります。現在でさえ高いといわれる国保税は、技術革新による高度な医療機器の導入等、医療費は年々増加する兆しがあります。このようなことから自主財源の確保は是非強化させなければならぬ肝要なこととあります。

以上、村の現実の姿を申し述べて参りましたが、時代の進歩に遅れない、そして時代に即応できる福祉の充実、生活環境の整備、農業の基盤整

備、教育の振興などを促進し、真に活力ある村を建設するには、先ずは若者を定着させ、老若男女打ち揃って、ともに力を合わせて村政を語り、村政の発展に力を貸すことのできる村こそ、うるおいとやすらぎのある村だと確信するものであります。

幸いにいたしましたして、時代に即した村土の有効活用を図るため、村の土地利用審議会を発足させ、村の土地利用計画を審査中であり、その結論を踏まえて、行政の対応もして参りたいと考えております。企業誘致に対する基本的考え方としては

- ① 自然環境との調和を図る。
- ② 村民と共存共栄できる企業などを基準に企業を選択を行なって参ります。

基本構想の 見直しについて

村の基本構想は昭和四九年に策定され現在に至っております。策定当時の時代背景を顧みますと、当時の我が国も高度経済の成長期にあつて、以来社会経済的にも急激な変貌を遂げつつ今日に至つており、現在の社会情勢からして

現実にはそぐわない面があります。計画は永久不変のものではなく、常に新しい時代に即応させる必要があります。その基本をなす土地利用基本計画をはじめ、現実にも即した計画に改め、時代のニーズにあつた村民が夢と希望のものである基本構想を策定する考えであります。

古宇利架橋建設の 推進について

村政の大きな行政課題である古宇利架橋の建設の促進については、議会をはじめ関係各位のご協力により、平成二年度は、架橋の予備調査及び島の振興計画の策定作業を進めて参りましたが、既に印刷製本の運びとなりました。要請資料もでき上がり条件整備も整い、平成三年度は、古宇利の離島苦解消と本島との一体化による経済の活性化、

ひいては村経済の架け橋にする古宇利、運天間の架橋実現に向けて要請活動を強力に展開する年にいたしたいと考えております。その実現に向け議会をはじめ、村民各位の尚一層のご協力をお願い申し上げます。

予算編成方針について

今帰仁村の財政事情は、前年同様極めて厳しい状況で歳入面では、村税、地方交付税等の大幅な増額は期待出来ない状況にある。

歳出においては、義務的経費の増、及び諸事業の推進等旺盛な財政需要が見込まれるため引き続き厳しい財政運営が予想される。

このような財政環境下において、限られた財源の効率の良い活用を図り、村民福祉の増進と生活安定、産業基盤の整備を図るものとする。

以上の状況を踏まえ、平成三年度の予算見積りは、次のとおり行うものとする。

- 1 予算編成における重点施策の基本的考え方は
 - 1 農業を基幹として新しい産業体系の確立
 - 2 豊かな共同性に支えられた活力ある暮らしの確立
 - 3 生活と産業を支える条件として自然の保全と活用
 - 4 住民が主体となる「むらづくり」の推進
- 全体的な事項としては
- 1 補助事業として導入できる事業については、極力補助を受けること。

2 事業費の事務取扱いは、可能な限り人件費を優先充当するものとする。

3 事業の選択に当っては、事業の必要性、事業の効果、執行体制を十分に検討の上、総合的かつ長期的視点にたつて優先順位の決定を行い特に埋蔵文化財等に留意すること。

4 予算の見積に当っては、既定経費の徹底的な洗い直しを行い、極力、経費の抑制に努めることを基本とし、真に村民の幸福に寄与できるかどうかを常に検討し、最小限の経費で最大の効果をもたらしよう慎重に対処していききたいと思ひます。

地域づくり推進 事業について

1 事業決定過程

「住みよい村づくりのため自ら行う地域づくり」をテーマに村民に対して、ふるさと創生事業の説明とアイデア募集を実施した。村民から応募されたアイデアをまとめ、総括集を作成し、事業内容の状況、種類、分類別事業の内容の状況をまとめて、その

アイデアの内容が十分反映されたふるさと創生事業を実施するため、役場の各課・局長以上の職員で検討し、次のような事業が決定された。

2 決定事業の内容

イ 地域活性化事業

住民ニーズの多様化によりそれぞれの集落(十九字)の要望が多岐にわたっている。各集落の住民が、地域活性化のため自主的、主体的に取り組んでいる事業を積極的に支援するため「今帰仁村地域活性化事業実施要綱」に基づき今年度も助成金を支出する。

ロ 日本一フルーツ

団地を作る事業

本村はさとうきびを基幹に諸作物が生産され、新しい技術の導入と新しい農業に取り組んでいる。特に最近では、花卉類の伸びが著しい。反面主要作物のさとうきびとパイナップルの生産量が減少傾向にある。その問題解決に、関係団体と協議しながら積極的に取り組むと同時に、今後は、花卉類やスイカ等に続く作物が必要であり、亜熱帯性

気候を活かした熱帯果樹の栽培が有望であると考えている。そこで、熱帯果樹の振興を積極的に推進するため、施設（ハウス等）は、国、県の補助事業で実施し、補助事業に該当しない苗木（マンゴ、ピワ、グアバ等）に対する助成金を、ふるさと創生事業で支出する。

八 村民の浜整備事業

村民のスポーツ、レクレーション、憩いの場として、村民の健康増進と教育文化、情操を養い育て、村民生活の活性化の原点、豊かな人間形成のコミュニティの場として、今帰仁村総合運動公園整備事業が推進されており、その目的を十分發揮させるため、面的広がりを拡大し、村民の浜整備基本計画が三月中旬に完了しますので、その成果を検討の上、平成三年度において、村で対処できる事業の実施設計を行い、早めに事業実施する考えであります。

二 児童の遊び場

列車保存事業

総合運動公園内にC57の機関車及び食堂車が設置され、鉄道のない沖縄にあつては貴重なもの、小中学生の生き

た教材として、汽車の現物を見ることは、教育の立場から重要なことである。同時に公園内のシンボルの存在ともなっている。長年風雨にさらされ腐食が進行しているのでその修繕をする計画であります。

ホ 酒田市(山形県)

との交流事業

昭和五三年から毎年交流が行われている「リゾート大学沖縄酒田村」が今年で十四回目を迎えました。今後とも交流事業を継続発展させるため小学生を中心に冬場の酒田市へ派遣し、異なる地域の体験学習(雪のふれあい)をさせたいと思います。その実施については、「ふれあいの翼実行委員会」が行うことになっており、基金の果実を事業費として助成する考えであります。

村税の賦課徴収

対策について

村税の賦課徴収業務を向上させることは、貴重な自主財源を確保することのみならず、

村民の村づくりへの参画を促進する手段として大いに期待されるものです。

村税を取り巻く最大の課題は、徴収率の一〇〇%達成をめざすことと、我が国の税制度が自主申告を重要視していることにかんがみ、住民に正しく申告をさせるということにあります。

幸いにして、徴収率については、各区長や関係機関・村民の理解と協力により、向上の一途にあり、とりわけ平成元年度分については九九・一%と県内七位の位置にあります。今年度も税務職員のおお一層の努力と誠意でもって、徴収率の向上に努めてまいり所存であります。

申告の適正化を図ることは、村税収の向上の為に今後強力に推進しなければならぬ大きな課題であります。住民税の八十%以上が給与所得に依存している現状をさらに細かく分析し、関係機関の協力をあおぎながら、今後の申告の適正化・税収の向上につなげてまいります。

これら徴収率の向上と正しい申告を推進する為には、住民の意識の高揚を図ることが最も肝要です。その為村では、

一般会計の八・七%にあたります。

水道事業について

水道事業は、平成三年度も年次計画に基づき、村民生活の向上及び水道施設の整備改善による水需要の安定化を図るため、本年度も国庫補助金等を得て平成二年度の継続事業として、謝名地区簡易水道施設整備工事、越地・ウンビ線の配水管布設替工事、ポンプ場・浄水池・配水池等の電気計装設備(制御装置)工事を実施してまいります。

なお、今までにご指摘のあった諸問題を改善し、健全な水道水の安定供給、有収率の向上を図ると同時に、村民のご協力を求めながら水道料の収納率のアップを図ってまいります。



各分野ですばらしい功績

叙勲・文部大臣表彰祝賀会

昭和五十九年春から平成二年秋までの叙勲・文部大臣賞受賞祝賀会が、二月二十八日午後三時、コミュニティセンタ―で関係者百人余が出席するなか盛大に開催された。

今帰仁村関係の叙勲は、玉城清勇氏(勲五等雙光旭日章)―那覇市首里石嶺町二二二九



村内をはじめ長崎県松浦市、那覇市、石川市から参加した受賞者ら

(古宇利出身)、故長田盛秀氏(勲五等瑞宝章)―那覇市首里石嶺町四一五一―三六(玉城出身)、湧川善三郎氏(勲四等瑞宝章)―那覇市泊一三二―一(謝名出身)、玉城盛源氏(勲五等瑞宝章)―那覇市樋川一―三四―一七(湧川出身)、玉城精喜氏(勲五等雙光旭日章)―今泊一―一六、

田港芳子氏(勲五等瑞宝章)―天底三一六、吉田光正氏(勲四等瑞宝章)―仲宗根二七八、上間信夫氏(勲五等雙光旭日章)―今泊四五八〇、普天間和子氏(勲六等瑞宝章)―天底一四八、

新世紀秀氏(勲四等瑞宝章)―石川市石川二六六―二(諸志出身)、松田幸福氏(勲五等雙光旭日章)―仲宗根一八八、渡嘉敷毅宝氏(勲三等雙光旭日章)―那覇市鳥堀町三一六七―二〇(湧川出身)、知念盛良氏(勲七等瑞宝章)―長崎県松浦市志佐町白浜免一八〇

六(謝花出身)、上間豊雄氏(勲六等瑞宝章)―アルゼンチン国コルドバ市サマイワアン街四七四(兼次出身)の十四名の方々。

文部大臣賞は、兼次小学校(与那嶺猛校長)と仲宗根繁雄氏―湧川四七三がそれぞれ受賞した。

主催者を代表して上間博安村長は「叙勲と文部大臣賞は各分野にすばらしいご功績により受賞となったもので、今帰仁村民として大きな誇りであり、そのご労苦に対し、村民を代表して感謝申し上げます」と式辞を述べた。このあと受賞者に、上間村長から祝詞と紅型の記念品が贈られ、山城正村議会議長、黒島直太村教育委員長の祝辞に続き、仲原孝夫村商工会長の音頭で乾杯が行われた。

祝賀会では、久しぶりに顔をあわす方も多く、思い出話や近況の報告に、時のたつのも忘れ語り合っていた。

受賞者を代表して、吉田光正氏が「ここまでこれたのは村民はもとより、友人知人、多くの人々の支え、協力のおかげであり、感謝致します。経験を生かし、健康のゆるすかぎり、地域に尽くしていきたい」と謝辞を述べた。

今帰仁村農協主催の「ちびっこじゃがいもまつり」が、このほど諸志の畑でにぎやかに開催された。

ちびっこじゃがいもまつり 収穫の喜び体験

初日の二月二十六日は、仲尾次、中央、仲宗根、今帰仁の村立保育所の園児約二〇三人が参加。

じゃがいもまつりは、土に親しみながら収穫の喜びを体験してもらおうと企画された。開会式は、嘉数望くんをはじめ諸喜田耕・与那嶺透・平田倫明くん、山城若菜・新城東子・玉城優菜・伊佐麻衣子ちゃんのかわいい園児によるテープカットとくす玉割で始まった。六〇〇坪の畑を提供した島袋幸雄さん(諸志一―四)が「じゃがいもを食べて大きくなってください」とあいさつ。

続いて、石川晋くんと我那覇歩美ちゃんが「じゃがいもほりうれしいな」「うきょうのおじさんありがとう」とお礼を述べた。



「ぼくのじゃがいも大きいよ」初めてのまつりは大にぎわい。

いも堀りも十五分もたつとみんな上手になり、あつという間にかごやビニール袋はじゃがいもで一杯に。収穫後は、ほっかほかの味を楽しんだ。

玉城賢三農協長は「今帰仁は県内有数の農業地域であるが子供たちが土に親しむことが少ない。農業に興味を持ってもらい一人でも多くの後継者が育つことを願って計画しました」と語っていた。

じゃがいもまつりは、その後、各村立幼稚園と私立の兼次幼稚園、北山保育園それぞれおとば学園も参加して行なわれた。

生涯学習を考える

第七回 社会教育振興大会開催

学ぶよろこび生きるよろこびのある地域社会の創造をめざして一を大会テーマに二月二十三日「第七回今帰仁村社会教育振興大会」がコミュニティセンターで開催された。大会には各種団体や社会教育関係機関の方々約二百人が出席。西島一将教育長、上間博安村長のあいさつに続いて、仲宗根安枝さんが「あさぎ会の発足とその活動」、吉田光正さんが「長寿学園おきなわ」について、それぞれの立場から事例発表を行った。ここで、「あさぎ会」の活動についてご紹介します。



仲宗根安枝さん

現代の子供達は、学歴社会の中にあり、学校でも地域においても、学力向上に力を入れていきます。でも、その前に情操教育が、もっと必要ではないかということ、乳幼児をもつ母親達が、ここ二三年

秘かに思い続けてきたことを去年八月「あさぎ会」という形で発足させたサークルです。低学年の頃から塾に通う子供達、また家の中ではファミ

コンやテレビゲームに夢中になり、昔のように自然を相手に伸び伸びと遊ぶことも少なくなってきました。その結果、人の気持を思いやるやさしい心、物事への感謝の心など、心の豊かさに欠けていると思います。私達の「あさぎ会」では、世代間の横のつながりを強めて、子供達に年上を慕い、年下をいたわるような思いやりの気持を育てていくのを目的とし、スタートしました。

第一回めは、おじいちゃんおばあちゃんとのふれあいコーナーと銘うって「手作り教室」を企画し、昔ながらの玩

具づくりとハサパージュシーをつくることにしました。まず、老人会長に相談、その後、区民に呼びかけたところ大きな反響がありました。老人会の皆さんは、声がかかるのを待っていたかのように、生き生き、テキパキと各々の仕事の分担をきめたのです。ソテツやアゲンを準備する人ハサパーを準備する人等、相談を持ちかけた私はびっくりしてしまいました。

当日、与那嶺のあさぎ前広場では、おじいちゃん、おばあちゃん達から、昔ながらの玩具づくりの手ほどきを受け、子供達は、初めての体験に、目を輝かせていました。おじいちゃん達と水鉄砲の飛ばし勝負をする子供達、アゲンの葉っぱでつくった風車は、女の子達に大人気でした。

また、もうほとんど見られなくなったワラで一生涯懸命に縄を編む子供、それを手ほどきするおじいちゃん、その光景は本当に心温まるひと時で

した。そして、私達、若い母親は、おばあちゃん達とともに、シンメーターナビを使い、昔ながらのピープチで火を起しまきでジュシーを吹きましました。それを火であぶったパシヨウの葉に包み、ハサパー弁当をつくり、みんなでおしくほおばりながら、老人クラブの代表の方に各々がつくった玩具やハサパー弁当の説明をしていただき、楽しい昼食でした。

午後は、老人、子供達と仲良く手をとりあい踊り、軽レクレーションを楽しみました。最後に、老人会より子供達へ真心のプレゼントが手渡され一日の日程を終了しました。

その日の「あさぎ会」に参加しての感想を、六年生の島田美和さんは昨年九月、村の敬老会で次のように発表しています。「楽しいこと、つらいこと、たくさん経験してきたおじいさん、おばあさんは、私達にとって大先輩であり大先生です。私達はこれからもおじいさん、おばあちゃんを持つている素晴らしい知恵と技をどんどん受けついでいきたい。どうか、二十一世紀をつくる私達のために、いつまでもお元気で長生きして、い

ろいろ教えて下さい」と。このように、子供達は、日常、学校、家庭で経験できないものを感じ取ったのではないのでしょうか。

また、お年寄りは、これからの地域の活性化は「私達、シルバーパワーで」と、自信をつけたのではないのでしょうか。お年寄りの生き甲斐づくりとしても「あさぎ会」を続けていきたいと思えます。

◆四月……新入生・進入おめでとう会

◆六月……戦争体験を聞く会

◆八月……定例の「手作り教室」

◆土月……与那嶺にまつわる「民話を聞く会」

等を予定しています。去年八月に発足したばかりなので、今年から本格的な活動開始です。

人から「ワーバイゲトウ」と言われても、チャンスを与えられたら、たじろがず、積極的に取り組んでいきたいと思えます。地域のためだけではなく、それが私の生きがいだと言えるように。そして、私自身の生涯学習として「ワーバイゲトウ」をどんどんやっていきたいと思えます。

渡喜仁から上運天にかけての風景

昭和三六年頃、今帰仁村の多くのところに水田が広がりましたが、茅葺屋根のある家などがゆつたりとした風景をつくりだしていた。しかし、そのような風景が写し出された今帰仁の写真は以外と少ない。少ない茅葺屋根の家や水田のある風景写真の一枚が、今回紹介するものである。

この一枚の写真の風景を特定するために、上運天から渡喜仁、勢理客、さらに運天へと何度も足を運んだ。ムラの方々の三十年前の記憶を呼び起こすことは、そうたやすいことではなかった。調査で写真の風景場所を特定することはできなかつたが、渡喜仁から上運天にかけての場所だろうと、安谷屋忠吉さん（勢理客）をはじめ大方の印象であった。

昭和三八年の大干ばつで、今帰仁村の水田ばかりでなく、簡易水道が枯れ飲料水などに困ったことがあった。その影響で水田が放置された

り、あるいは畑に切り替えられていったことがあった。その後、今帰仁村の水田が急激に減少し、昭和四〇年代の前半には水田のある風景がほとんど消えてしまった。その風景を記録した写真が、これまでのところ非常に少ない。

この写真の場所は、仲宗根から今帰仁中学校の側を通り運天に向う途中の渡喜仁から上運天にかけての風景だとみられる。が、まだ特定するには至っていない。

昭和三六年に大洋漁業調査船が沖縄近海のクジラ調査で訪れたとき、運天港に寄港し上陸して周辺を撮影した東京在の方から提供を受けた写真の一枚である。渡喜仁から上運天にかけての風景写真の他に、運天港、大北墓、それに渡喜仁の伊是名墓の四枚の写真の提供を受けた。

さて、写真に目を移すと、ここは渡喜仁から上運天にかけての一風景だとみられる。前面に水をたたえた水田があ

り、まだ稲の植付けがされず田植への準備中のように見える。水をたたえた水田風景は、人の気持を和ませてくれる。



▲渡喜仁から上運天にかけての風景？（昭和36年）

水田の向う側には、茅葺屋根の民家が二軒ある。前にある家は南向きの母屋と、向って右手に小さな茅葺屋根の小屋がある。山羊小屋や鳥小屋なのか、それとも薪や農具を入れておく小屋なのかはつきりしないが竹でできた壁があり、その前にはバキ（パーキ）が置かれている。二か所に長い竹竿があり洗濯物が干

され生活の漂う情景である。小屋の東側（右手）には、イモが野菜でも植付けたばかりの畑がある。田のあぜや屋敷の周辺の草は、山羊がいるせいか刈り込まれている。南向きの家の前には島芭蕉が植えられ、屋敷囲いはなく開放的で質素なたたずまいである。さらに後方にも、茅葺屋根の母屋があり、その家には二軒の小屋がある。母屋の状況は見えないが、二つの小屋の壁は板が打ちつけられ、一つは家畜小屋のようである。もう一つの小さな小屋は便所なのかもしれない。家の東側（手前右手）の斜面に芭蕉が植えられ、さらに下の方に砂糖キビ畑があり、季節は秋から冬にかけてなのだろうか。

昭和三〇年代今帰仁に瓦葺の家が目立つようになるが、まだまだ茅葺屋根の家があった時代である。戦後生まれの私たちにとって原風景である「水田のある風景」が消えていった頃、今帰仁の各家庭に二四時間の電気、水道が引かれ、テレビ、自家用車のもてる時代へと変わっていった。

仲原 弘哲

（歴史資料館準備室）

玉城仙一氏が 村社協に50万円の寄付

光徳大理石株式会社創業者で会長の玉城仙一氏（京都府在）から会社の創立50周年を記念して、村社会福祉協議会に50万円の寄付がありました。

寄付金の贈呈は3月8日、社会福祉協議会の応接間で行われ、玉城氏の親戚の上間政春氏が代理で松田幸福会長に手渡しました。



今帰仁剣道教室 募集

今帰仁剣道教室では会員を募集します。小学1年生以上の方が対象です。入会ご希望の方は社会教育課の与那嶺清治さん（☎56-2645）か直接、練習会場の今帰仁小体育館までお越し下さい。

練習は毎週土曜日の午後3時から5時まで。会費は保険料を含め年間1,000円。

嘉手納にあるボブホープ校、アメリカエアハート両校と、兼次小学校PTAの交流会が二月十八日兼次小学校で催された。アメリカンスクールの先生方は、兼次小・中学の校内授業を視察後、学校給食を

交流会に参加した感想を、与那嶺敬子さんは「国際化社会」が叫ばれている今日、北部の私達は、全く外国人との交流がありません。それは英語が話せないからといって、消極的になっていった私達の心に問題がある

アメリカンスクール教師と 交流会 国際化は心の結びつきから 兼次小学校PTA

試食した。交歓会では、村音頭を披露、なごやかな雰囲気の中で、活発な意見が交わされた。特に「家庭訪問とはどういうことですか」との質問が出され、アメリカンスクールにはない教育システムに、「とてもよいことですね」と教師は関心を示した。互いに生活や学校運営について、多くのことを学ぶことができた。

思います。国際化とは、言葉と言葉の結びつきではなく「心と心」の結びつきではないでしょうか」と話していた。次は「子供も参加しての交流会を」と希望を持つ兼次小学校のPTAでした。



子どもたちも気軽に会話を交していた

タックス コーナー

税について 考えてみませんか

No.10

今 回は、軽自動車税についてお話ししましょう。

軽 軽自動車とは、原付自転車、小型特殊自動車、二輪の軽自動車、二輪の小型自動車、軽四輪自動車を指します。

軽 自動車の登録は、原付自転車、小型特殊自動車、軽自動車、その他は、軽自動車協会窓口となります。抹消、名義変更についても同窓口となりますが、その時はナンバープレートや印鑑が必要となります。

軽 自動車税については、車の所有者の住所のある市町村役場（所）が課税し、納税義務もその車の所有者となります。税金の賦課期日は、毎年四月一日現在車を所有している方が対象で、その年度の税金を納付しなければなりません。（なお、四月一日付で廃車した時は課税されません。）また、軽自動車税には月割課税がなく、年中途で所有者変更（例えば、名義変更、抹消）があっても、その年度分の納税と関係なく、税金の還

付もありません。

軽 自動車税で、在宅の障害者（身障者、精薄者、精神障害者）に対し、障害者の負担を軽減するため、障害者本人または、生計を一にする者が所有する軽自動車で、もっぱら障害者の通学、通院、通所の場合に限り、税金が减免される制度があります。申請は役場窓口で、申請時期は四月一日から四月二三日までとなっております。障害者手帳及び障害を証明する書類等の必要なものがあり、障害の程度によっては減免できない場合もありますので申請の際はお問い合わせ下さい。また減免される車は一台に限られますので、すでに減免されている車の減免はできませんので、ご注意ください。

軽 自動車の件で、疑問な点がありましたら、役場税務課までお問い合わせください。

☎五六一二二〇一（内線二〇一）

みんなで楽しく 乙羽岳歩け歩け大会

三月十六日午前九時から、中央公民館において、今帰仁小学校の一年生とお母さんらによる「親子ふれあいのケー

おいしいな 親子でケーキづくり

今帰仁小学校1年生

キづくり」が行なわれた。子どもたちは、初めてのケーキづくりに真剣なまなざしで取り組んだ。デコレーションができあがると歓声をあげていた。

今帰仁小学校では、学級PTAを盛んにしようとする各学級一万円づつの予算が計上されそれを利用して一年生から六年生まで、親子のカレーづくりやもちづくり、それに村の史跡めぐりと、各学年において、ふれあいをもちつよい機会となった。

新年度においても、楽しい計画に胸がはずむことでしよう。

「楽しく歩いて健康づくりを」と

乙羽岳歩け歩け大会（主催・沖縄県歩け歩け協会）が二月二十四日行われ、村コミュニティ

センターから乙羽岳、呉我山、中央公民館までの約十四キロメートルを村内からの参加者を含む百人余の県民が心地よい風を頼りに受けながら

元気に楽しく歩いた。

午前十時すぎに出発。親子や孫の手を引くおじいさん、若いカップルと新緑の山々に目をやりながら和気あいあいさわやかな姿で歩を進めた。

初めて参加したという石原昌市さん（六二歳）、初子さん（五八歳）夫婦（佐敷町津波古）、乙羽岳展望台に着いた初子さんは「すばらしい景色で最高です。変化に富むコースを歩き、健康を実感し自信ができました」と笑顔で話をしていた。



思い出に残るケーキづくり



緑の中を元気よく歩く参加者

踊り・空手・棒術で交流

区長・書記が乙羽園訪問

天底にある特別養護老人ホーム乙羽園（高良文雄園長）に三月五日、村区長会と書記三十二人が友愛訪問して親交を深めた。

入園者と区長、書記は顔見知りの人が多く、近況報告をしながらなごやかな雰囲気の中で話はずんだ。

舞台では「祝い節」や「今帰仁村音頭」を始め、照屋昇区長会長（小林流七段）による空手「バ

ッサイ」と「棒術」それに友情出演の日本舞踊の名取りで師範の邑村春香先生の「黒田武士」、「大江戸花ごよみ」と変化に富むプログラムを披露。お年寄りたちは大きな拍手を送っていた。



書記のみなさんによる「祝い節」

訪問について「とてもすばらしい舞台でした。また、乙羽園に遊びに来てください」と笑顔で話した。カチャーシーのあと、入園者を代表して、三月二〇日に百歳の誕生日を迎えた新城金吉さんが「区長、書記さんどうもありがとうございます。これからも長生きするように頑張ります」と元気な声でお礼を述べた。



黒糖づくりに挑戦

さとうきびの植えつけから

おとば学園

障害者授産訓練施設おとば学園のみなさんが二月二十七日、同園で黒糖づくりを楽しんだ。今回が初めての催しでサトウキビは、村心身障害児(者)親の会会長の金城寛一さんの畑を借りて植えていた約五百キログラムから作っただけに、園生は「手作りの味に満足そうだった」。

三十年余前に黒糖づくりの経験のある金城吉信厚生課長が製造過程を指導。本部町の沖繩フルーツランドで西平賀盛さんが压榨し、その汁を大なべに入れ、長い時間煮詰めるとおたり一面に甘い香りが漂った。

火の加減を考えながらマキをくべる体験は初めてとあって、にぎやかな黒糖づくりとなった。比嘉健さんは「初めての経験で手順がわからず最初はとまどったが、わりといい黒糖が出来ましたと語っていた」。

この大会には、今泊、兼次、諸志、崎山・平敷、仲宗根、越

湧川、天底の男女と謝名・越



▲男子優勝の湧川チーム



▲女子優勝の仲宗根チーム

優勝湧川(男子)仲宗根(女子)

第二十四回少年少女ミニバスケットボール大会が二月十七日、湧川小中学校体育館で開催された。午前八時三十分すぎより開会式が行われ、第九回大会優勝の今泊チーム主将の上間晶くんが「いつもの練習の成果を発揮し、一生懸命がんばります」と力強く選手宣誓。

この大会には、今泊、兼次、諸志、崎山・平敷、仲宗根、越湧川、天底の男女と謝名・越

で天底に競り勝った崎山・平敷と湧川の間で行われ、三十二対二十一で湧川が優勝。女子は、仲宗根が実力を発揮し六十対二の大差で謝名・越地を下して優勝を飾った。

4月から20歳になったら学生も全員加入 国民年金

これまで20歳以上の大学生や専門学校の学生は、国民年金への加入は任意になっていましたが、下記のような問題点を解消するために、4月から学生も全員加入が義務付けられました。

加入手続きは住民票のある市町村で行うことになりますので忘れずに手続きしましょう。また、保険料の納付が困難な場合は、申請による保険料免除制度もありますので、役場でご相談ください。

理由1

今までは、任意加入していない学生は、交通事故や病気で障害者になっても障害基礎年金が受けられませんでした。全員加入することにより障害者になっても年金が受けられるようになります。

理由2

今までは、卒業後に加入しても将来満額の老齢基礎年金が受けられませんでした。20歳から加入することによって満額の年金が受けられるようになります。

募集 青年海外協力隊

平成3年度春の青年海外協力隊員を募集しています。募集説明会及び日程については役場の経済課までご連絡下さい。

☎56-2101 (内線35・34)

4月/卯月

村民カレンダー

1991年



4 月	○デイサービス (9:00~17:00コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン)	17 水	○母子推進員定例会 (14:00~16:00コミセン) ○心配ごと相談 (13:00~17:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)
2 火	○手話サークル勉強会 (19:30~21:00コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン)	18 木	○母子会展示会 (9:00~17:00コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)
3 水	○心配ごと相談 (13:00~17:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)	19 金	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)
4 木	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン)	20 土	○学力向上対策学校教育部会総会 (14:00~コミセン) ○おもちゃ図書館 (9:00~12:00コミセン) ○通信記念日 郵便週間
5 金	○DPT子防接種 (13:00~14:00コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)	21 日	○民放週間 (~27日)
6 土	○春の全国交通安全運動 ○おもちゃ図書館 (9:00~12:00コミセン)	22 月	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン) ○地球の日=アースデー
7 日	○第24回今帰仁村職域野球大会 (サブグラウンド9:00開会式) ○世界保健デー	23 火	○第19期北山大学開講式 (14:00~コミセン) ○手話サークル勉強会 (19:30~21:00コミセン) ○みどりの週間 (~29日)
8 月	○村内幼稚園・小学校・中学校・高校入学式・始業式 ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)	24 水	○心配ごと相談 (13:00~17:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)
9 火	○1歳6か月健診 (13:00~14:00受付、コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○手話サークル勉強会 (19:30~21:00コミセン)	25 木	○ことばの教室 (13:00~17:00コミセン)
10 水	○婦人週間 (~16日) ○心配ごと相談 (13:00~17:00コミセン) ○子豚セリ市 (13:00~家畜セリ市場) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)	26 金	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○子豚セリ市 (13:00~家畜セリ市場) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)
11 木	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○メートル法公布記念日	27 土	○学力向上対策総会 (14:00~コミセン) ○おもちゃ図書館 (9:00~12:00コミセン)
12 金	○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン) ○世界宇宙飛行の日	28 日	○さとうきびの日
13 土	○おもちゃ図書館 (9:00~12:00コミセン)	29 月	○みどりの日
14 日	○第24回今帰仁村職域野球大会 (サブグラウンド) ○ポスト愛護週間 (~20日)	30 火	○手話サークル勉強会 (19:30~21:00コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○図書館記念日
15 月	○3歳児健診 (13:00~14:00受付コミセン) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン) ○デイサービス (9:00~17:00コミセン)	5 月	○デイサービス (9:00~17:00コミセン) ○メーデー
16 火	○手話サークル勉強会 (19:30~21:00コミセン) ○牛のセリ市 (11:00~家畜セリ市場) ○ことばの教室 (9:00~12:00コミセン)	2 木	○八十八夜

■今回は、女子の参加が十名ということもあり、彼女達の元気が目立った。特に交流会では、予定の時刻に一時間も遅れながらも、気後れするどころか、逆に会をリードしそのはつらつとした姿に知名町青年団のみんなも、終始、笑顔で満足気であった。また帰りの船では、仲間の見送りに来ていた喜納昌吉さんに、携帯マイクで歌わせてしまうなど、ハラハラと見守る男性陣を尻目に、心行くまでこの旅を楽しんでいた。

■彼女らの明るさが、これからの青年会活動を引っ張る力になってくれるだろうと感ずる有意義な旅であった。

■村青年団協議会の十三名のメンバーが三月九日、十日の両日沖永良部へ出かけた。これは、団員の融和を図ることが目的で、フリージアジョギング大会への参加や地元の名町青年団との交流会も行なった。

